

米づくりは 土づくりから!

長岡農業普及指導センター
稲作情報(号外)

電話 0258-38-2554

E-mail ngt111440@pref.niigata.lg.jp

- 令和2年産の高品質・良食味米の安定生産に向け、土づくりを行いましょ。

コストを抑えた土づくりを紹介します!

1 稲わらの秋すき込み

- (1) 効果：保水力の向上と窒素供給量の増加（堆肥施用と同等の効果）
※高温登熟条件等の異常気象下で稲体活力を維持
- (2) 実施時期：10月中旬まで（収穫後できるだけ早く）
- (3) 方法：5～10cm程度の浅うち（土壌と稲わらを混和する）
- (4) その他：ワキの発生が春すき込みよりも軽減される



- 稲わらを分解する土壌微生物は地温が15℃以上で活発に働くため
収穫後地温が高いうち（10月20日頃まで）に実施しよう。
- 特にワキの発生で苦労しているほ場は、秋すき込みをしよう。

2 もみ殻の施用

- (1) 効果：ケイ酸の供給と土壌の膨軟化
- (2) 実施時期：基本は10月中旬まで（稲わらと一緒にすき込む）
- (3) 施用量のめやす：各ほ場から得られたもみ殻量
- (4) 注意点：
 - ・ごま葉枯病、稲こうじ病、墨黒穂病が多発生したほ場のもみ殻は伝染源となる可能性があるため施用しない。
 - ・雑草種子が多量に混入したものも施用しない。

田んぼからとれたもみ殻
すべて散布すると、ケイカル
で約80～100kg/10aの施用
に相当するよ
(収量540kg/10aで換算した
場合)



収量540kg/10a



もみ殻約135kg/10a
(ケイ酸24～27kgに相当)



ケイカル約80～100kg/10a
に相当!

新潟県農作業安全運動実施中（8月20日～10月20日）
安全は「整理」「整頓」「ゆとり」から